

## 令和 3 年度学校教育自己診断アンケートの分析

### 1. 回答数と回答率

生徒の回答数 47(回答率97.9%、長欠除く)、保護者の回答数 14(回答率42.4%)、教員の回答数 17(回答率94.4%)であった。

肯定的意見とは回答 A(そう思う)・B(ややそう思う)の合計の数値(%)で、である。
--

### 2. アンケート集計における傾向

昨年度のアンケート集計との比較をすると、保護者のすべての項目で肯定的意見が増加しており、10%以上増加している項目が7つあった。

また、生徒における肯定的意見が10%以上増加した項目が2つある反面、10%以上減少した項目が3つあった。ただし、すべての項目で肯定的意見は60%を上回り、80%を切っているのは3つの項目であった。

教職員においては31項目で肯定的意見が増加しており、そのうち22項目で10%以上ポイントが増加した。

### 3. 授業について — 生徒 4, 5, 18、保護者 3、教員 6~10

生徒の肯定的意見が「4 教え方に工夫をしている先生が多い」が89.4%と昨年同様に上昇、「5 授業の初めに段取りを示してくれる先生が多い」は91.5%と昨年度から19ポイント上昇している。また、保護者の「3 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」は86%と昨年度から21ポイント上昇している。

教員の取組みとしても「6 年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」100%、「7 この学校では、他教科の担当者とも話し合いながら指導方法の研究・工夫・改善に努めている」81.3%、「9 生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」100%と高い数値となっている。「楽しくわかりやすい授業」の実現に向けて、今後も日々努力し続けなくてはならない。

### 4. 生徒によるアンケート結果から

生徒の肯定的意見が80%を切っているのは3つ。

・「1 学校に行くのが楽しい」61.7%は昨年度と比べると少し上昇しているが、4年生では35.3%ととても低くなっている。しかしながら4年生の9割近い生徒が「学校生活についての先生の指導」に納得し、7割の生徒が「学校に来ること」に意味を見いだしている。今後も努力を惜しまないようにしたい。

・「8 担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」72.3%は昨年度と比べると10ポイント以上減少しているが、「6 悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生が多い」は84.8%、「7 先生はいじめなどについて真剣に対応してくれる」は93.2%と肯定的意見の割合が高く維持されているので、今後もより相談しやすい関係を築いていきたい。

・「14 部活動は、自分にとって有意義な時間だ」が 61%と低いことについては、部活動に参加していない生徒が多く回答している影響が考えられる。ただ、部活動に参加していない生徒が多いことについては、部活動が生徒の主体的・自主的な活動が基本なので簡単ではないが、何らかの対策が必要かと思う。

#### 5. 保護者によるアンケート結果から

今回、どの項目でも肯定的意見が昨年度に比べ増加し、高い評価をいただいた。中でも「1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」79%は次年度の教育活動へのモチベーションになる。ただ、保護者の回答率が 4 割ほどとなっている。回答率を上げる手立てを考えたい。

#### 6. 教員によるアンケート結果から

・「36 学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」100%、「37 教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」82.4%など、指導方法の研究・工夫・改善への取組みが見られる中、「8 この学校では、創意工夫を生かした「いきいき」の時間を実施している」は 68.8%と大きく肯定的意見が減少している。「いきいき」の時間(総合的な探究の時間)へのさらなる創意工夫が必要である。

・「12 生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」88.2%、「13 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」82.4%、「16 この学校では生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」93.8%、「17 生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」100%、「23 この学校は、情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる」87.5%、「24 人権尊重に関する様々な課題や社会ルールを守る意識育成の指導について、全教職員で話し合っている」76.5%など、学校生活全般にわたって生徒の指導についての肯定的意見が増加しているが、「21 学校として部活動の活性化について工夫している」は 58.8%と肯定的意見が減少している。教員自ら問題意識を持ち改善していく必要がある。

・「25 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」70.6%、「34 校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施され、教育実践に役立っている」82.4%、「35 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」76.5%など、肯定的意見が大きく回復した項目もある。

・「32 この学校では、図書館が生徒に活用されている」の肯定的意見が 31.3%と減少している。学校として改善のための取組みが必要である。